

関水 国際海事機関(IMO)次期事務局長 談話

本日(11/30)、第27回IMO総会において、次期事務局長として承認をいただきました。誠に光栄であり、御支援をくださった方々に厚く御礼を申し上げます。

今日、海事に関わる分野では、安全問題、環境問題や海賊問題など、多くの課題を抱えております。今後、海事分野全般を引き受ける唯一の国連専門機関であるIMOの事務局長として、効率的な組織運営を行いつつ、総勢170に上る加盟国などの協力も得ながら、着実に課題を解決して参りたいと存じます。

安全問題に関しましては、国際的に海上安全に関する取組が始まるきっかけとなった「タイタニック号」の沈没事故から、来年でちょうど100年となります。IMOにとって最も根源的な課題である「安全」について、大局的な観点から改めて検討を深める好機であると認識しており、将来を見据えた視野で議論をしていきたいと考えております。

環境問題については、特に地球温暖化問題に対する取り組みが重要と考えております。国境を越えて航行する船舶からのCO₂の排出については、海事に関わる専門機関である我々が、UNFCCCでの議論と平行して、その検討を担っております。その結果、今年7月、他のすべてのセクターに先駆けて、国際海運においてCO₂排出を最大で30%削減するための国際条約(MARPOL条約の改正)を採択できたことは、画期的な成

果として評価できます。

今後は、船舶の CO₂ 排出削減をさらに促進するための経済的な枠組みについても、海運分野の特性を熟知する国際機関として、責任を持って取り組んで参りたいと思います。

海賊問題では、ソマリア沖、アデン湾など海賊の出没海域において、関係各国が実施している護衛活動や哨戒活動の効果がある程度現れてきております。IMOでも、周辺国の協力体制に関する行動指針(ジブチコード)の策定、周辺国の安定のための基金の設定といった取組を進めてまいりました。

しかしながら、最近広域化の傾向を見せてきている海賊行為に対抗するには、哨戒活動のより一層の連携強化などをはじめとして、関係諸国が一致協力しての協働が必要不可欠です。IMO としても引き続き周辺国の海賊対応への能力向上のための国際協力の強化に取り組んで参ります。また、海賊問題は IMO 単独では解決が難しい問題であり、国連の安全保障理事会や他の国際機関と協力して取り組みを進めて参りたいと考えております。

この他にも、途上国に対する支援や人材育成にも積極的に取り組んで参りたいと思います。また、IMO 諸条約の確実な履行の徹底や、効率的な組織運営といった点についても力を入れて参る所存です。

今後とも、IMOに対し変わらぬ御支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。